

第3回 AI 活用教育賞で“佳作”に入選 AI 語り部を活用した防災教育 ～伊勢湾台風を次世代へ～

令和7年8月2日（土）、地域づくり技術研究所が進めている標記の取組論文が、「第3回 AI 活用教育賞（AI活用エデュケーション部門）」で、佳作に入選しました。今回は、772点の中から9点が選ばれました。

伊勢湾台風から66年、長い年月の経過により、当時の状況を伝えられる人も減少し、人々の記憶からも消えつつあります。一方、近年の水害は激甚化しています。災害被害の最少化に向け、後世への伝承が課題となっている中、最新技術である ChatGPT に着目し、若年層を念頭に伊勢湾台風の記憶と記録の伝承を目的として、災害体験者による口頭や当時の記録による文書での伝承では無く、AI 語り部による伝承システム「伊勢湾台風 AI 対話システム」を制作しました。現在まで、学校での防災講座などで約1,000人の子供たちが体験しています。子供たちは、質問を考え AI に質問し回答を記録。質問を考えること、回答を学ぶことも学習であり、更に、「今の自分たちだったらどうするか」を考え話し合うことで、災害を自分事として捉えることにも繋がっています。

今後も、地域の守り手となる子供たちの防災意識向上のため、トレンドやニーズなどを意識した取り組みを行い、自分事として、多くの人へ伝える防災啓発を展開していきたいと考えています。

*「AI 活用教育賞」とは、AIを活用した教育の普及と発展を目指すことを目的とし、優れた取り組みをした個人や団体を表彰するもの。（主催：AI活用教育賞実行委員会・特定非営利活動法人TOSS）

